20～29歳女性の子宮頸がん検診の未受診理由に関する実態調査及び女子大学生の参画による子宮頸がん検診等に関する啓発プログラムの開発

氏原 恵子[*1)] 若杉 早苗[1)] 村松 美恵[1)] 稲垣 恵子[2)] 三輪 与志子[2)] 寺田 彩乃[3)]
和田 真実[3)] 池田 孝行[3)] 今村 綾子[3)] 鈴木 久仁厚[4)] 田辺 雷太[4)]

1）聖隷クリストファー大学看護学部　2）聖隷クリストファー大学助産学専攻科
3）聖隷福祉事業団保健事業部　4）浜松市健康福祉部健康増進課

[目的]
本研究の目的は、全国的に検診受診率が伸び悩んでいる20歳代女性を対象に子宮頸がん検診未受診理由や本当は知りたいけど聞けない事などの実態を明らかにし、子宮頸がん検診の啓発プログラムを開発する事である。

[方法]
本研究は、以下の3つの研究を実施した。対象者は20歳～29歳の女性とし、調査期間は2021年6月～2022年3月までである。第1研究は、A市内の検診機関にてがん検診等受診者に対し、独自に作成した自記式質問紙調査をWebにて実施した。第2研究は、半構造化されたインタビューガイドに沿い、グループインタビュー法を用いてインタビューを実施した。質問項目は、第1、2研究共に、子宮頸がん検診の未受診理由や本当は知りたいけど聞けない事などである。第3研究は、第1、2研究結果により明らかになった「未受診理由」、「聞けない事」を基に検診啓発プログラムを開発した。本研究は本学倫理委員会、検診機関倫理委員会の承認事項を遵守した。

[結果]
第1研究では、180名に調査依頼書類を配布し、そのうち58名から回答を得た（有効回答率32%）。子宮頸がん検診受診を「受けた事がない」は26.7%、未受診理由としては「特に症状がないから」が 50%、「恥ずかしいから」「予約が面倒だから」「検診機関がわからない」が18.8%であった。検診受診前に知りたい情報としては「検診費用の情報」が68.8%と最も多く、次いで「簡単な予約方法」「女性医師のいる医療機関の情報」が65%であった。自由記載には「内診が恥ずかしいので必要性はわかるがきっかけがないと踏み出しにくい」や「生理の日を計算して予約をしなくてはならず予約もとれない」など羞恥心や予約の手間が確認された。検診無料クーポンを「あまりよく知らない」「知らない」は 33.4%であり、クーポンに関する情報提供の必要性が確認された。第2研究は、申込者9名のうち4名の同意を得て実施した。インタビュー時間は平均97分。参加者からは、婦人科かかりつけ医がいないことや予約の手間、検診時の羞恥心が未受診理由として語られた。また、検診時の痛みや不快感に関するSNSの情報による不安の増強など、質問紙調査（Webにて実施）には記載されなかった内容が語られた。第3研究は、第1、2研究の結果を基に女子大学生と協働し「予防啓発リーフレット」を作成し、A大学看護学部1年次から4年次生約500名、高校生113名にリーフレットを配布した。また、「啓発に関する教育プログラム」の1つとして女子大学生による出張授業を高校生113名に実施した。[考察]情報不足、羞恥心が受診行動に影響していた。開発した啓発プログラムをブラッシュアップし、検診受診の意識づけ、情報の適時提供方法の検討の必要性が示唆された。